

まちのできごと

保育所・小中学校合同音楽会



6月25日、大豊町中学校体育館で町内の保育所、小学校、中学校合同の音楽会が行われました。オープニングでは、本山町の姫流太鼓の皆さんによる、迫力のある太鼓演奏がありました。小学校低学年の合唱では、会場の全員が参加できる歌になっており、大いに盛り上がりしました。また、それぞれの合唱や合奏では、練習の成果が十分に発揮され、町内の子どもの元気な姿を見ることができました。



立川記録集発表会



6月26日、旧立川番所書院（立川御殿）で土佐山内記念財団による「地域記録集 土佐の村々1（その2）」の発刊報告会が開催され、文化財に関心がある方など約100人の参加者が、梅雨を感じさせない晴天の中、御殿に集まりました。3年間にわたる調査に協力された地域の方々や、地域を離れた方々も久しぶりの再会を懐かしんでいました。土佐山内記念財団からは渡部館長をはじめ4人が出席し、プロジェクターを使って調査過程の写真などを使い発刊の報告を行いました。報告会の終了後は、地域から碁石茶ゼリーもふるまわれ、その後、御殿周辺で1時間程度参勤交代道の散策をしました。

梶ヶ森山開き



7月5日、梶ヶ森安全祈願祭が行われました。当日は天候にも恵まれ、梶ヶ森山頂に多数の関係者が集まりました。定福寺の釣井龍秀住職が読経して、登山者の無事故・山の安全を祈願しました。その後、山荘梶ヶ森で、おおとよ小学校の5年生6人が伝統芸能の「寺内太刀踊り」を披露。見事な舞にお客さんから大きな拍手が巻き起こりました。

大豊町体育会表彰



6月27日、大豊町体育会表彰の選考委員会において、スポーツ技能、記録などが優秀な個人または団体に贈られる優秀賞に大豊町中学校3年生の小笠原真魚くんが選ばれ、30日に行われた体育会理事会で賞状及び楯が授与されました。真魚くんは、ソフトボールの高知県代表選手として、岡山県で開催された第12回都道府県対抗全日本中学生ソフトボール大会に出場し、見事、準優勝の成績を収めました。おめでとうございます！今後、ますますの活躍を期待しています！

地域おこし協力隊 集落支援員 がゆく！

Vol.3

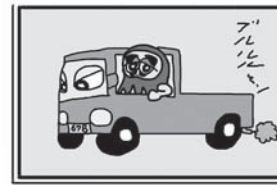
「走ることは嫌いである」

走ることは嫌いである。夏は暑い冬は寒いしなによりしんどい…それでも、大豊に来てからも土日の午前中は薬師堂まで走っています（東京では闇夜に紛れて走っていました）。ランナーズハイと言って長く走っていると、脳内物質の関係で気持ち良くなってくらしいのですが、なったこともありませんし、役場のHさんに「マラソンに出してくれない」と言われた時は即座にお断りしました。では、走るのをやめればとも思うのですが、東京に比べてここ大豊は体を動かすことがなすすぎで、向こうでは一日5キロ程度は普通に毎日歩いていたのに、ここでは一日百数歩の日も当たり前になってしまっています。週2回薬師堂まで往復して12キロ、東京で2日間歩く距離と変わらない距離しか足を使うことがないではないですか。もし、走るのをやめてしまえば足を動かすことがほぼなくなってしまいます。確かに靴底はすり減ることもなくなり、経済的に助かる〜とかそういう問題ではなく、動けなすすぎで体が硬くなってきているのを実感するようになってしまったんです。障害物を乗り越えるときも、段差を飛び降りるときも体がスムーズに動かなく、ヨココラシとヨックリと動作になってきてしまいました。都会と違い、バリアフリーのないこの大豊では致命的です！都会では田舎に行けば、健康的に体を動かせる場所が豊かに存在すると思っている人も多いのですが、生活の中で自然と体を動かすような場所は、やはり都会の便利な生活の場で多いように思います。走るの嫌いだけど、ますます走るしかないのでヒ〜ヒ〜といながらも走っているだけです。



プロジェクト推進室 地域おこし協力隊 中岡 邦夫

アイムランニングマン



まちのできごと

税について学びました



7月14日、大豊町中学校で、3年生を対象に町長が講師を務める租税教室が開かれました。人口の動きや税の種類、町の予算について説明があり、町の収入は、国税や県税を含めるとほとんどが税金で賄われていること、また、中学校にかかる教育費は3千万円であることなどを生徒はメモを取りながら真剣に聞いていました。また、生徒からふるさと納税のしくみについて知りたいと積極的な質問も出ていました。最後に代表者が「たくさんの税金の種類があることを知り、勉強になりました。今日の話を忘れず、将来困らないようにしたい」とあいさつをしました。

地域交流行事～わらじづくり～



7月30日、久寿軒老人憩いの家で、久寿軒地区と北川地区の皆さん約20人が「わらじづくり」を体験しました。今回の「わらじづくり」は、地域で集まるのが少なくなったので、みんなで何かをしようということで企画されました。地域の方の中でもわらじをつくれるのは3人しかいなくなり、その方々に教わりながらとても和やかな雰囲気、談笑しながら自分のわらじを一生懸命編んでいました。